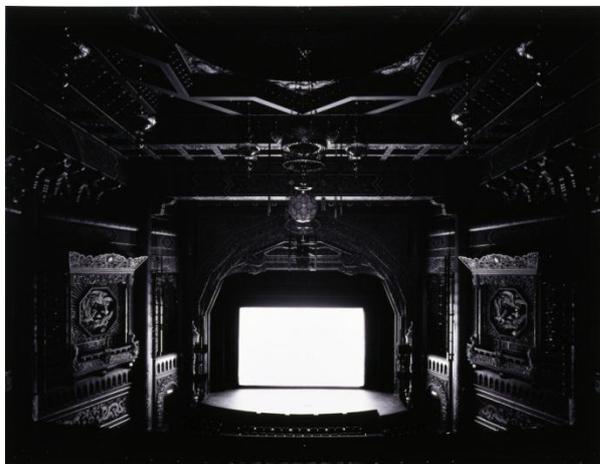


BLACKS

ルイーズ・ニーヴェルスン | アド・ラインハート | 杉本博司



杉本博司
《フィフス・アヴェニュー・シアター、シアトル》
1997年
ゼラチン・シルヴァー・プリント
51×61cm
DIC川村記念美術館蔵
©Hiroshi Sugimoto / Courtesy of Gallery Koyanagi

ニーヴェルスンの黒い彫刻、ラインハートの黒い抽象絵画、杉本博司のモノクローム写真。

2013年早春、DIC川村記念美術館は「黒」の作品が際立つ三人のアーティストを取り上げます。

近年、ニーヴェルスンとラインハートの作品が多数展示される場はとても珍しく、杉本の「劇場」シリーズもまとめて見られる機会は少ない状況ですが、本展では当館の所蔵品をはじめ、国内外から50点以上の作品を集めて充実した出品内容になります。また、これら三作家に特別な関心や知識のない鑑賞者にとっても、色彩の誘惑を排したスタイリッシュな作品群に宿る、静寂と光を味わっていただけることでしょう。

この貴重な展覧会を多くの方にお知らせたく、広報活動にご協力をお願い申し上げます。

- 展覧会 BLACKS ルイーズ・ニーヴェルスン | アド・ラインハート | 杉本博司
- 会期 2013年2月2日(土)―4月14日(日) 62日間
- 開館時間 9:30-17:00(入館は16:30まで)
- 休館日 月曜日(2月11日は開館)、2月12日(火)
- 入館料 一般 1,300円、学生・65歳 1,000円、小中高 500円
 ※2月15日はDIC株式会社の創立記念日につき無料でご入館いただけます。
- 会場 DIC川村記念美術館 千葉県佐倉市坂戸 631
 <http://kawamura-museum.dic.co.jp> Tel. 0120-498-130
- 主催 DIC株式会社
- 後援 千葉県、千葉県教育委員会、佐倉市、佐倉市教育委員会

■ 開催趣旨

ルイーザ・ニーヴェルスン(1899-1988)、アド・ラインハート(1913-1967)、杉本博司(1948-)。本展で紹介されるこれら三人の館蔵作家はいずれも、「黒」を作品の重要な要素として、特徴的な作品を制作した芸術家です。ニーヴェルスンは黒く彩色した木で立体物を構築し、ラインハートは黒一色の抽象絵画を描き、そして杉本は白黒で対象を撮りました。その意識的な取り組み方は、作家の全作品に及ぶ徹底した追求と反復として完遂し、ある限定した時期に過渡的な試みとして黒い作品を制作した作家のそれとは一線を画します。本展は、ニーヴェルスンの箱を積み上げた彫刻作品、ラインハートの黒いキャンバス作品と版画、杉本の《劇場》シリーズを紹介します。世代や出自、作品の技法やスタイルを異にしながら、ともに黒を用いた三者の作品を組み合わせることで、日常の喧噪とは真逆の、異質で寡黙な世界を提示します。

■ 作家紹介・主な出品作

◆ ルイーザ・ニーヴェルスン (1899-1988)

アメリカを代表する女性彫刻家。キエフに生まれ、幼少時にアメリカへ移住。1950年代より艶消しの黒で彩色した木製の箱状彫刻を制作し、独自の様式を確立。一時的に、白や金で着色した作品も発表した。

《スカイ・リフレクション》1962-77年（富山県立近代美術館蔵）

《無題》1964年（福岡市美術館蔵）

《夢の家 XXX》1972年（DIC 川村記念美術館蔵）

ほか全15点



ルイーザ・ニーヴェルスン
《世界の庭 VI》
1959年
塗料、木材
93.5×190.5×22.2cm
DIC 川村記念美術館蔵



ルイーザ・ニーヴェルスン
《夢の家 XXX》
1972年
塗料、木材
180×67×36cm
DIC 川村記念美術館蔵

◆ アド・ラインハート (1913-1967)

戦後アメリカを代表する画家。ニューヨーク州バッファローに生まれる。1930年代にキュビズムの影響を受けた幾何学的抽象絵画を制作し、50年代には赤、青のモノクローム絵画、1956年より黒一色の絵画のみを繰り返し描く。

《トリプティック》1960年（滋賀県立近代美術館蔵）

《タイムレス・ペインティング》1960-65年（東京都現代美術館蔵）

《抽象絵画》1960-66年（DIC 川村記念美術館蔵）

ほか全 15 点（うち版画約 10 点）



アド・ラインハート
《抽象絵画》
1960-66年
油彩、カンヴァス
152.4x152.4cm
DIC 川村記念美術館蔵



アド・ラインハート
《抽象絵画 No.34》
1964年
油彩、カンヴァス
152×152cm
サムソン美術館リウム蔵

©AD REINHARDT / ARS, New York / JASPAR, Tokyo, 2012
B0144

◆ 杉本博司 (1948-)

東京に生まれる。1974年よりニューヨークに在住し、モノクロームの写真作品をシリーズで展開する。代表作に「ジオラマ」「劇場」「海景」など。現在はニューヨークと東京を拠点に活躍する。

《フォックス、ミシガン》1980年（丸沼芸術の森蔵）

《メトロポリタン LA、ロサンジェルス》1993年（大阪市立近代美術館建設準備室蔵）

《フィフス・アヴェニュー・シアター、シアトル》1997年（DIC 川村記念美術館蔵）

ほか全 26 点



杉本博司
《アル・リングリング、バラブー》
1995年
ゼラチン・シルヴァー・プリント
42×54.3cm
大阪市立近代美術館建設準備室蔵
©Hiroshi Sugimoto / Courtesy of Gallery Koyanagi

■ 出版物

- ◆ 展覧会カタログ（編集・制作：DIC 川村記念美術館、執筆：前田希世子 税込み 2,000 円）

■ 関連イベント

◆ 講演会

彫刻、絵画、写真という技法を異にした出品作品にちなみ、それぞれにおける「黒」をテーマに幅広くお話をいただく3回シリーズ。

13:00 より館内受付で整理券配布 | 先着 60 名 | 聴講は入館料のみ

梅津元氏（埼玉県立近代美術館主任学芸員・芸術学）

2月23日(土)14:00-15:30

「三次元における黒—素材、空間、色彩」

田中正之氏（武蔵野美術大学教授）

3月9日(土)14:00-15:30

「黒いキャンバス：マティスからラインハートまで」

清水穰氏（同志社大学教授）

3月23日(土)14:00-15:30

「闇と色彩—写真と黒の関係」

◆ 学芸員によるギャラリートーク

2月2日(土)、3月16日(土)、4月14日(日) 14:00-15:00

担当学芸員が展覧会をご案内いたします。

予約不要 | エントランスホール集合

◆ ガイドツアー

講演会とギャラリートーク開催日を除く毎日 14:00-15:00

ガイドスタッフがコレクション展示と展覧会をご案内いたします。

予約不要 | エントランスホール集合

◆ 音声ガイド

当館収蔵品と本展出品作の解説をお聞きいただけます。

1台 500円

◆ 映面上映『はじまりの記憶 杉本博司』

2月16日(土)15:00-16:30 | 2月17日(日)11:00-12:30

杉本博司に長期密着取材し、創作の核を見つめたドキュメンタリー。

監督:中村佑子(2012年 テレビマンユニオン WOWOW、83分)

上映1時間30分前より館内受付で整理券配布 | 先着50名 | 鑑賞は入館料のみ

◆ お茶席企画 "Tearoom in BLACKS"

本展会期中、館内の眺めの良い立礼式茶室で陶芸家・横山拓也の黒い茶碗と
木工作家・新宮州三の黒い漆器で抹茶とお菓子をお楽しみいただけます。

営業時間 10:30-16:30 | 一服 800円



撮影：広瀬達郎

◆ クロストーク「寡黙な黒と饒舌な黒—黒をめぐる散歩」

2月24日(日)15:00-16:30

広瀬一郎氏(西麻布「桃居」店主) × 横山拓也氏(陶芸家)

現代作家の器を25年間見つけ続けてきたギャラリーオーナーと1973年生まれの気鋭の陶芸家による
「黒」にまつわる四方山話。

13:30より館内受付で整理券配布 | 先着60名 | 聴講は入館料のみ

■ 取材および資料請求お問い合わせ先

DIC 川村記念美術館

〒285-8505 千葉県佐倉市坂戸 631

TEL 043-498-2672 (取材用) 0120-498-130 (一般向け・媒体掲載用) | FAX 043-498-2139

広報担当: 海谷紀衣 norie-kaiya@ma.dic.co.jp

学芸担当: 前田希世子 kiyoko-maeda@ma.dic.co.jp